

純ペア1,200円、年間臨給5.66ヶ月!

JR
WEST

西
労
組
UNION
ニュース

No.10
(通算) No.519
2018.3.30

JR西労組ホームページ
(http://www.jrw-union.gr.jp)

西日本旅客鉄道労働組合
本部/〒530-0012 大阪市北区芝田二丁目一十八番
TEL JR(大阪)06-6377-1171 (西阪急ビル9F)
TEL JR(大阪)06-6377-1174 (代)
FAX JR(大阪)06-6377-1174
FAX JR(大阪)06-6377-1175 (代)
●発行責任者/荻野山勇市 馬朗
●編集責任者/宮野山勇市 馬朗

昨年を大きく上回るペア 成果をタイムリーに反映させる!

【主な妥結内容】

- 労働協約に定める基準昇給の完全実施(定期昇給分の確保)
- 純ペア1,200円(社員の職務遂行給、シニア基本給に1,200円を加算)
※1,200円にエリア手当の反映分を含むと1,276円。
- 年間臨給5.66ヶ月
- 契約社員の時間給10円引き上げ(1,600円/月相当)
- 精勤手当(契約)、精励手当(シニア・シニアリーダー)を
年間最大6万円引き上げ(夏季・冬季3万円ずつ)
(例)シニア社員勤務日数100日以上(現行)10万円→(改正)13万円
- シニア・シニアリーダー社員の精励手当の勤務成績額加算を
最高10万円に増額
※現行(6万,4万,2万,△5千,△1万)を(10万,5万,2万,△1万,△3万)に改訂
- シニア・シニアリーダー社員の精励手当を初回から支給
(定年退職日の属する年の冬季精励手当から支給)
- プロ採(大卒)初任給の引き上げ措置
- 総合生活改善等
 - ・帰省等交通費の見直し
※現行に加えて、単身赴任者は24往復、家族帯同者は2往復、独身者は1往復(各年度)
 - ・東京地区通勤手当の見直し(回数券から定期券へ)
 - ・海外赴任者の健康診断に伴う一時帰国費用の負担(1往復/年度)
 - ・福利厚生制度「ジェイアールウエスト倶楽部」の導入
 - ・短時間・短日数勤務に伴う昇給欠格条項の削除
- 同一労働同一賃金の法改正に先立ち、賃金制度を含めた
制度見直しの検討を開始【口頭表明】
- 駅契約社員の採用難に対応する、駅業務執行体制の議論を開始
【口頭表明】

2018春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

JR西労組中央闘争委員会は、本日2018春季生活闘争の最終交渉に臨み、基準昇給の実施に加え、純ペア1,200円、年間臨給5.66箇月分、シニア・シニアリーダー社員の精励手当の増額及びシニア雇用初年度の1回目からの支給、契約社員の精勤手当の増額、時間給10円引き上げのほか、帰省等交通費の改善等の回答を引き出し、さらに同一労働・同一賃金に向けた検討を法改正を待たず開始することや労働力確保に向け我々が求めていた駅の業務執行体制の見直しについても議論を開始することが口頭表明され、大きな成果を確認して席上妥結した。

JR西労組は連合・JR連合方針に基づき、月例賃金総額6,000円以上の引き上げ、純ペア3,000円、年間臨給5.7箇月、シニア・シニアリーダー社員・契約社員の賃金改善、エリア手当、退職手当、55歳以降基本給調整率廃止等を中心とする要求を提出し、JR西日本の堅調な経営動向を背景に、組合員と家族の負託にこたえるべく、成果の公正な配分を求めて精力的な交渉を重ねてきた。

今春季生活闘争は、世界経済の不透明感や先進国における賃金の伸び悩みなど懸念すべき点はあるとしながらも日本経済の緩やかな景気拡大の中で、JR西日本の経営動向は、昨年比増収増益で収入・利益ともに過去最高を更新し、組合員の期待が高まる闘いとなった。

我々鉄道業は、業績が大幅に上下せず、安定的、永続的に鉄道を核にサービスを提供し、長期雇用を

通じて技術・技能の向上を培っていくことが重要であるとの認識を踏まえ、安定的な配分を持続させることが組合員の生活の改善、労働意欲や求心力の向上につながることを主張し5年連続のベースアップにこだわり議論を行ってきた。また、今年度は、社会的な労働力不足の中、どのように働き方改革やワーク・ライフ・バランスを進めていくかという大きな課題認識のもと、具体的には国会での長時間労働の是正や正規・非正規の同一労働・同一賃金の議論を注視したうえで、議論を先取りし交渉を展開してきた。しかし、会社は、最終年度となる中期経営計画における主要財務指標等の目標値を上回る業績を計上できる見込みとしながらも、今後の景気動向や人口減少、老朽取替をはじめとする各種経費の増加が見込まれる厳しい経営環境の中で、次期中期経営計画を念頭に置いて検討を進める必要があると賃上げに対して慎重な姿勢を貫き、接点の見出しにくい交渉となった。

最終局面では大手企業の賃上げ回答が昨年を上回る中、重大インシデントへの対応などもあり厳しい状況となったが、中央闘争委員会は、組合員とその家族の熱い思いを受けて、生涯賃金の増加につながるペアを最優先に、徹底してこだわる粘り強い闘いを続け、最終的に純ペア1,200円、中計達成見込みの成果配分を含めた年間臨給5.66箇月を中心とする成果を勝ち取った。そして、2014年から5年連続のペアにより、4,450円の純ペアを積み上げたことは非常に大きな成果である。

今春季生活闘争も徹布行動や各級機関の春闘集会等への積極的な参画により、中央闘争委員会を精神的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様を中心に感謝申し上げる。今後、両バス地本、JR広島病院支部、宮島フェリー支部、JR西日本連合に結集する労組の交渉が本格化する。この成果を活かして相乗効果が発揮されるよう最大限支援していく。

最後に、今後も新幹線重大インシデントへの対応を含め安全を基礎に、会社の健全な発展を通じて私たちの地位の向上へ邁進していく決意を明らかにし、2018春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2018年3月14日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
2018春季生活闘争中央闘争委員会

